

浄願寺だより

R1夏No.12

遠方にお住まいのご門徒さんから定期的に近況を聞かせてほしい、とのご要望があり、このたび浄願寺だよりとしてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめてお知らせしようと思えます。夏冬二回発行を予定して、います。

令和元年八月十一日発行

編集責任者

浄願寺住職 関秀法

迷惑をかけない終活

最近の終活ブーム、お墓のことや、お葬式のこと、お寺でも様々な相談をお受けするようになりました。皆さんそれぞれのお考えや信念を持って、自分の人生をどのように納めていきたいのか、お話をしてくださいませ。私も、お一人お一人のご事情に合わせて、お寺にどんなお手伝いができるか一緒に考えさせていただきますながら、いろいろ人生勉強をさせていただいています。

しかし、その終活の相談中、必ずと言っていいほど聞かせていただく言葉の中に、少し引かかる言葉があります。それは、あとの人に「迷惑をかけないように…」という言葉なんです…。

「迷惑をかけないように。」もちろんそれは誰しもの願いです。例えば子や孫に金銭的な負担をかけないように、遠方の家や墓の世話をさせずに済むよう、周りの人に「迷惑をかけない」人生の歩み切り方を模索するのがそもそも「終活」の動機でありましょう。

しかし、考えすぎかも知れませんが、時々思うのです。生前に葬儀の段取りを済ませたり、家や墓を整理したからと言って、本当に私たちは人に「迷惑をかけず」に人生を生きることができるものなのでしょうか。

仏教では、私たちの住んでいる世界を「堪忍土（かんにんど）」とも言います。つまり、「迷惑をかけたり、かけられたりしながら、それに耐え忍ぶのが当たり前の世界」という意味です。この世界は、満員電車に乗っているようなもので、こちらに迷惑をかけ

る気が無くても、足を踏んづけたり、カバンをぶつかけたり、知らず知らずのうちにも、他人に迷惑をかけてしまっているものです。また、たまたま今、私に座れる座席があるということは、それは誰かが我慢して立ってくれている、ということでもあります。

しかし、そんな満員電車の中でも、できるだけ人に迷惑をかけまいと周囲によく気を配っている人がいます。そういう人は「自分が無意識のうちにも人に迷惑をかけてしまう」存在だとよく気付いている人ではないでしょうか。

一方、「自分は誰にも迷惑をかけていない」と胸を張っている人ほど、案外、周囲の受けている迷惑に無頓着だったりするものです。

私たちの「終活」、それはいかに「人に迷惑をかけないよう」にするか、を考へることも大切ですが、それよりも先ず、

「いかに今日まで私が周囲のお世話になって、迷惑もかけながら生きてきたか」に気付かされることが出発点ではないでしょうか。そして、これからも老いや病や死を迎えていく中に、「いかに多くの人の世話になり、支えられ続ける私であるか」を深く自覚するところから本当の終活が始まるのではないかと思うのです。

「迷惑をかけない」という慢心よりも「迷惑をかけざるを得ない」という謙虚さに導かれて、私たちに相応しい、実りある人生の道を求めていこうではありませんか。

令和元年夏日 住職



新墓地・

永代供養墓 工事ほぼ完了

数年前から総代様方を中心に計画、造成を進めていたお寺に、浄願寺の新しい墓地「ふるさとの杜（もり）墓苑」の工事がほぼ完了しました。

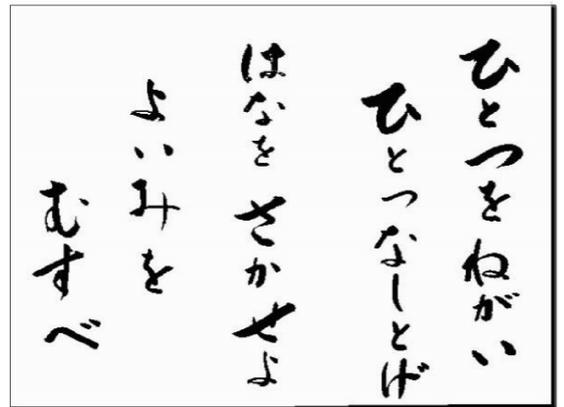
ふるさとの杜墓苑は、バリアフリーで安全にお参りをしていただけます。また、複数の永代供養墓も新設し、近年急速に変わりゆくお墓に対する考え方にも柔軟に対応できるようにしました。

新墓地、永代供養墓の詳細は下記ホームページか、住職におたずねください。



新墓地の永代供養墓

お寺の掲示板



門徒の広場はWEB版ではご覧いただけません。



浄土真宗本願寺派
笹尾山浄願寺

〒620-0925
福知山市上篠尾725
電話(0773)-22-5280
email jyouganjiweb@gmail.com
http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法

編集後記

毎年、夏の総会に間に合うように発行している「浄願寺だより」。今年は遅れてお盆になってしまいました。忙しかった、というのはい訳で、私は昔から、「後でやろう」、「明日やろう」の癖が抜けないんです。

「明日ありと思う心の仇桜」と詠んだのは親鸞聖人です。「明日があるさ」と歌ったのは坂本九です。私の弱い心はまだ、九ちゃんに軍配をあげてしまいます…。

みなさんの声から生まれた、新しいかたちのお墓です。



ふるさとの杜墓苑
永代供養墓

www.furusatonomoriboen.com